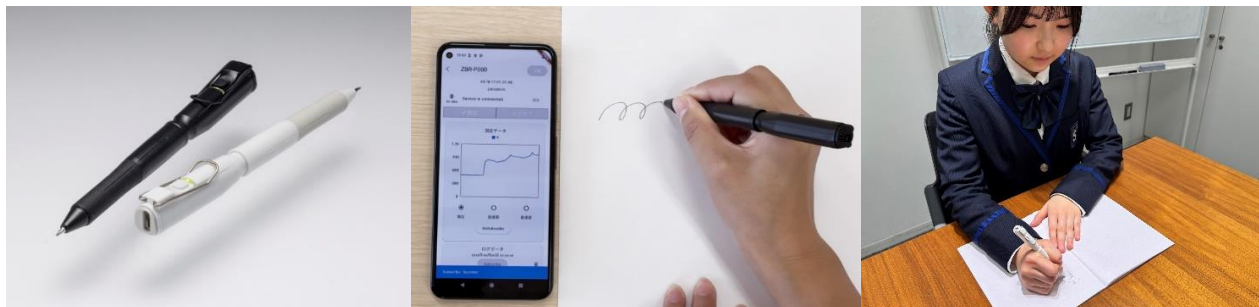


**筆記具メーカー「ゼブラ株式会社」が初めて中学高校の探究学習に参画！
筆記をデータ化するペンで「かく」ことの可能性を探る学習プログラムを提供。
～2026年7月より東京 青稜中学校・高等学校で授業開始～**

ゼブラ株式会社（本社：東京都新宿区／代表取締役社長：石川 太郎）は、教育×DXを専門としている株式会社SUN Reality（サンリアリティ）（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：西條 康介）と協業して、全国中学校と高校向けの探究学習プログラム提供を開始します。また、その第一弾として、青稜中学校・高等学校（東京都品川区）で2026年7月より授業を開始します。なお、青稜高等学校は2026年度の高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）にも採択され、情報や数学等の教育を重視するカリキュラムにも対応します。

ゼブラ株式会社は、「かく、その先のこと。」という新コーポレートスローガンのもと、「かく」ことを通して得られる体験価値の創出に取り組んでいます。特にデジタル領域における新たな体験やサービスの創出を目指す新ブランド「shimauma lab.」（シマウマラボ）を立ち上げ、力を入れています。

本プログラムでは、筆記時の筆圧・角度・速度などのデータを取得できるセンサーを搭載し、「かく」行為をデータとして可視化できる独自開発のペン「T-Pen」を使うことで、「かく」というアナログな行為を科学的に解析し、手書きの価値への理解を深めるという新しい学びを提供します。今回ゼブラ株式会社と株式会社SUN Realityが学習プログラムを提供することで、教育現場にとって生徒の身近な「筆記」を切り口とした授業を企業×教育×DXの視点から実施することができます。



△センサーを搭載した「T-Pen」

△筆記に関するデータを取得できる

△学生の探究授業に使用

■青稜中学校・高等学校での授業の概要

実施内容（共通）

- ① データ化（T-Pen活用）：加速度や筆圧を計測できる「T-Pen」を用い、「かく」行為を可視化します。
- ② 客観的分析：収集したデータを基に、感覚的だった「書き方」を定量的に整理し、他者との比較を通じて分析スキルを養います。
- ③ 手書きの考察：「かく」行為の違いが思考や表現に与える影響を考察し、手書きの価値への理解を深めます。
- ④ 論理的プレゼン：分析結果をエビデンスとして、ゼブラ株式会社へ「受験に強いペン」の商品企画を提案し、フィードバックを受けます。

（高校生向け）夏休み特別授業

実施時期：2026年夏休み

対象生徒：高校1～3年生

（中学生向け）中2・中3を対象にした合同ゼミナール

実施期間：2026年9月7日～10月19日（4回）

対象生徒：中学2～3年生 約50名

青稜中学校・高等学校での授業はメディア取材も受け付けています。取材希望の方はお問い合わせください。

*** このサービスに関する報道関係の方のお問い合わせ先 ***
ゼブラホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション室：畑中・鈴木 TEL:050-1706-0335
e-mail: yhatanaka@zebra.co.jp / ysuzuki@zebra.co.jp
*** このサービスに関する学校関係者の方のお問い合わせ先 ***
ゼブラ株式会社 お客様相談室 TEL:0120-555335(平日9時～17時) <https://www.zebra.co.jp/>

■探究学習とは

生徒自らが問いを立て、情報収集や分析、対話、実践を通して課題解決に取り組む「主体的な学び」を指します。中学校では「総合的な学習の時間」として探究的な学びが行われており、高等学校では2022年度から「総合的な探究の時間」として必修科目に位置づけられています。変化の激しい社会において求められる思考力・判断力・表現力の育成を目的とし、地域や企業と連携した実践的な取り組みも広がっています。一方で、教育現場では探究授業のテーマやプログラム設計に課題を感じるケースも多く、企業との連携による学びの機会創出が期待されています。

■「T-Pen」とは

ゼブラ株式会社が開発した本体にセンサーを搭載し、書いている時の速度、角度、筆圧、時間などのデータを取得できるペン。Bluetoothで様々なデバイスに接続して筆記のプロセスを可視化し、デジタル空間とつなぐことができます。

もちろん通常の筆記具（ボールペン又は シャープペン）のように紙に書くこともできます。

全長：146mm 重量：19.6g ※非売品

